

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
地球環境変化の人的側面（HD）分科会（第25期・第4回）
議事要旨

1. 日 時 令和4年5月9日（月）10:00～12:00
2. 場 所 オンライン（Zoom）
3. 出席者：近藤昭彦（委員長）、関 礼子、竹中千里、春山成子、氷見山幸夫、山下 潤、
渡辺浩平、阿部健一
欠席者：井上 真、谷口真人
4. 配布資料
 - ・第25期第3回議事要旨（案）
 - ・Knowledge, Learning, and Societal Change Alliance (KLASICA) 2.0
5. 議事
 - (1) 前回議事要旨について（資料）
 - ・第3回分科会議事要旨（案）が承認された。
 - (2) 話題提供
 - ・渡辺浩平委員（地名小委員会座長）による国外の地名の日本語による呼称に関する話題提供があり、議論を行った。
 - (3) 分科会活動に関わる情報交換
 - ・竹中委員からFEの推進と連携に関する委員会（4/11開催）の報告があり、委員会で検討されたFE学術フォーラム開催案が紹介された。HD分科会としての視点から、フォーラムの内容に関する意見交換がなされた。
 - ・春山委員から、学術会議の幹事会に提出されている当該フォーラム開催案の最新情報が提供された。
 - (4) カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議
 - ・地域と地球規模の問題解決に関するトピックスの一つとして、カーボンニュートラルの問題が挙げられ、地域レベルの小技術の重要性と情報発信の重要性が指摘された。
 - (5) KLaSiCa 小委員会について
 - ・阿部委員からKLaSiCa ver2の概要説明があった。KLaSiCa ver1からはナラティブの手法を引き継ぐ一方、ver2では、組織的な活動を行っていくことが報告された。現在の時点では、地球研がひとつのハブとなることが決まっている。
 - ・11月にKLaSiCaのシンポジウムを日本で開催する予定である。
 - ・哲学委員会の芸術と文化環境分科会が「芸術と風土（仮）」をテーマとしたシンポジウムを開催する予定である。
 - (6) 今期の分科会の活動方針について
 - ・HD分科会としてシンポジウム（あるいはワークショップ）を開催する。
 - ・学術会議に対して本分科会の議論を「記録」として残すことを検討する。

(7) その他

- ・シンポジウム等をやるのであれば、早めに具体的に進めたほうが良いという指摘があり、「問題解決（課題解決）」をキーワードとしてシンポジウムを年内に開催することを目指し、委員長がアウトラインを作成し、委員に送付することとなった。
- ・次回の委員会を7月末ごろまでに開催し、シンポジウムや本分科会のとりまとめについて議論することとなった。